

海域の概要

本湾は、佐渡東部の真野町に存在する湾です。真野湾水域では、全国に先駆けて栽培漁業センターを設立し、現在はヒラメを中心に栽培漁業を行っています。



Specification

諸元

湾口幅：6 8 1 km

面積：5 1.8 9 km²

湾内最大水深：3 9 m

湾口最大水深：3 9 m

閉鎖度指標：1 0 6

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

新潟県佐渡郡真野町田切須崎と同郡相川町台ヶ鼻を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。

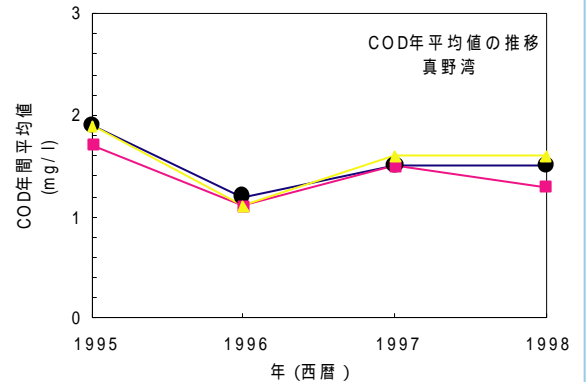


環境

真野湾は、日本海に面し、対馬暖流の影響を強く受けているため、気温が比較的高くて積雪も少ない海洋性気候となっています。石田川・国府川・小川内川などの河川が流入しています。

水質は比較的良好で、COD年平均値の推移をみると2mg/l以下で推移しています。

底質は、細砂が主体ですが、湾口付近には岩盤が広く露出しているところもあります。



自然

真野湾の後背地には平坦、丘陵、山岳がほぼ均等に広がり、気候は、日本海を北上する対馬暖流の影響で穏やかです。春と秋は晴天の日が多く、積雪も少ない穏やかな海で、湾の北西部は佐渡弥彦米山国定公園に指定されています。

湾奥部には広いアマモ場が分布し、湾口付近の岩礁にはガラモ場も広く分布しています。

真野湾の東側、越の長浜には人面岩がそびえ立ち、遠くを見つめる人間の横顔にそっくりです。また、春から初夏にかけてスイセンやカンゾウの花が楽しめます。

佐渡の海岸はおもに岩場が多いのですが、真野湾には砂浜のビーチ（新町海水浴場・榑尾海水浴場）が2ヶ所あります。数年前までは、高波が打ち寄せられた後に佐和田海岸を歩くと、茶碗一杯くらいのサクラ貝が拾えましたが、最近は、なかなか目にする事ができなくなりました。



佐和田海岸のサクラ貝

文化歴史

沢根炭屋町裏・八幡田屋山・二宮白崩・藤塚貝塚などの遺跡から、縄文古代の遺物（石器）が採集されます。室町時代に、笹川の砂金山が開かれ、明治まで採掘されていました。徳川幕府の初期までは、佐渡一国の治府が置かれ、佐渡の中心地でした。明治の廃藩置県後 30 あった市町村は、現在 9 市町村となり、1 島 1 市の市町村合併について議論されています。

産業

平成元年から島おこし事業としてスタートした「トライアスロン佐渡大会」のメイン会場として、近年、脚光を浴びています。

近年、漁獲量の減少にともない、沿岸漁業の振興と水産資源の確保を目的に、真野町には「作り、育てて、獲る」栽培漁業の拠点として、新潟県栽培漁業センター・真野町栽培漁業センターがあり、ヒラメやサザエ等の養殖事業が行なわれています。そこで育てられた稚魚は、佐渡を中心に放流され、その一部は新潟県内や全国にも出荷されています。